

令和5年度

事業計画及び予算書

公益財団法人いばらき文化振興財団

目 次

I 事業計画	1 ~ 16
II 収支予算	17 ~ 21

I 事業計画

基本方針	1
1 公益目的事業1 [公1] (文化振興事業)	2 ~ 7
2 収益事業1 [収1] (県民文化センター自主事業)	8
3 公益目的事業2 [公2] (水族館事業)	9 ~ 15
4 収益事業2 [収2] (水族館売店事業)	15 ~ 16
5 法人運営	16

I 事業計画

基本方針

当財団は、「各種の文化振興事業を行うことにより個性豊かな県民文化の振興を図りもって国際性豊かな文化の県づくりに寄与する」ことを目的として、次の事業を実施する。

なお、公益財団法人として公益目的事業を引き続き遂行するとともに、収支の均衡した健全で責任ある経営に努めるものとする。

令和5年度は、県民の自主的・個性的な文化活動の支援をはじめ、参加体験を通じた文化芸術の担い手育成や県民とともに創る文化プログラムの提供等により文化振興の拡充を図るとともに、本県文化活動の拠点施設である「茨城県立県民文化センター」の適切な管理運営により、県民が様々な文化芸術に接する機会を提供する。

また、「NEW AQUAWORLD」として作り出した様々な新ブランドの継承と、常に新しいことに挑戦し、今までにない「世海」を創出する海の総合ミュージアムである「アクアワールド茨城県大洗水族館」の運営を行い、県民から愛され、親しまれる施設運営と事業展開に努める。

さらに、新型コロナウイルス感染症対応については、ウィズコロナ時代に移行しつつあり、利用者の安全が確保できるよう防止対策を継続しながら、効率効果的な事業手法の導入や経費抑制の徹底による経営基盤の強化で、県民文化センター及び大洗水族館の両施設の機能が十分発揮できるよう管理運営に当たるものとする。

1 文化振興事業

(1) 文化振興推進事業

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中においても、県内で活発な文化芸術活動が推進されるよう、県内各地で活動する文化活動団体等への支援拡充と、広く県民が文化芸術に参加する機会の創出や担い手の育成強化などにより、人々の暮らしに潤いと豊かな心を育む力『文化芸術』を最大限に発揮することで、すべての人や社会に元気を与え、本県の魅力向上を実現する。

(2) 茨城県立県民文化センター指定管理事業

第4期指定管理期間（令和3年4月1日から令和6年3月31日までの3年間）の3年目という最終年においても、引き続きガイドラインに沿った新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、施設利用者が安全安心で快適に施設が利用でき、文化芸術の振興と県民の文化水準の向上に寄与できるよう施設運営に努める。

2 水族館事業

20周年を機に作り出した新たなブランドを継承しつつ、今春のリニューアルオープンを経て、今まで以上に新たな挑戦を図る水族館として運営する。

また、サメの飼育数日本一を誇り、日本初シロワニの繁殖を成し遂げたナンバー1かつオンリー1の水族館として確立していく。

<財団全体の施設年間利用者目標数>

・茨城県立県民文化センター利用者数	450,000 人
・アクアワールド茨城県大洗水族館総入場者数	1,198,251 人
合計	1,648,251 人

1 公益目的事業 1（文化振興事業）

（1）文化振興推進事業

文化活動団体等の活動支援や県民及び新進演奏家との参画・協働による創出の場の提供で県民ひとり一人の創造力を高めるとともに、文化の担い手育成の強化により文化芸術振興の拡充に努める。

ア 文化活動への助成、活動支援

新型コロナウイルス感染状況の大きな変動に適切に対応し、創意・工夫を凝らした積極的な取り組みを行っている文化活動団体等へ追加募集による支援拡充で、県民ひとり一人の創造力を高める基盤づくりに努める。

<助成計画数>

項目	当初募集	追加募集	合計
助成交付件数（件）	83	12	95
助成予定額（千円）	19,877	2,500	22,377

① 文化活動団体等に対する活性化支援

コロナ禍で集客・募集が困難な県内文化活動団体等が実施する催事を当財団ホームページ等を活用し、催事実施日の告知やチラシの配布・掲出による情報発信で活動支援に努める。

② 申請者の利便性の向上

申請者に対して 24 時間受付対応可能なオンライン申請を継続実施し、利用者の利便性向上を図る。

イ 参加創造事業

県内在住・出身の新進演奏家に対し発表の場の提供を推進する支援や、県民との参画・協働による創出の場の提供を図った事業を行うとともに、新たな取り組みとして県内を巡回するアウトリーチ事業の実施や Web チャンネルによる普及コンテンツの追加により、未来を見据えた文化芸術に興味関心を促す仕組みをつくる。

<事業計画数>

実施日	公演名	会場	入場者数
8月20日(日)	県民企画公募型事業 「野口雨情 140 周年記念コンサートツアー」	小ホール	250 人
9月24日(日)	新進演奏家ステップアップ事業 「第 49 回茨城県新人演奏会」	大ホール等	600 人
7月～9月	県内巡回アウトリーチ事業 「音楽出前講座・リズムで遊ぼう！」(4 回)	幼稚園 保育園等	200 人
10月7日(土)	県民企画公募型事業 「音楽とダンスの化学反応ステージ (仮)」	小ホール	250 人
10月28日(土)	担い手育成事業 「親子で楽しむ 0 歳からのコンサート」(2 回)	小ホール	500 人
11月5日(日)	新進演奏家ステップアップ事業 「新人演奏会受賞者コンサート」	常陽藝文 センター	250 人
2月12日(月・祝)	新進演奏家ステップアップ事業 「100 年プラス・ミュージック! +PLUS」	小ホール	300 人
2月	水族館 (事業所間) 連携事業 「ヴァレンタインナイト」	大洗水族館	600 人
計 8 事業			2,950 人

ウ 新進演奏家への支援

当財団の自主公演事業での出演をはじめアウトリーチ事業 (文化芸術体験出前講座) への講師派遣を継続かつ計画的に行っていく。

なお、Web チャンネル上で公開している新進演奏家の PR 動画にセールスポイント等を追加して、演奏家の魅力を最大限に発信できるようリメイクし、各企業・市町村等主催事業への派遣依頼の推進を図る。

<出演・派遣等人数>

区分	主催公演事業	アウトリーチ事業	市町村等派遣	合計
R4 計画	35 人	85 人	10 人	130 人
R5 計画	60 人	125 人	15 人	200 人

エ Web チャンネルを活用した文化振興

既存コンテンツにある新進演奏家の紹介や催事等の情報発信に加え、新たに音楽・演劇・朗読等の舞台芸術の普及コンテンツを追加し文化芸術への興味関心を促す。

オ 受託事業

学校派遣型の学校卒の出前講座と県内市町村と連携し公立文化施設等において親子で参加可能な一般卒講座による、身近に文化芸術に触れる機会の提供で、未来を見据えた担い手の育成に努める。

<実施計画数>

区 分	学校枠	一般枠	合 計
R4 計画	88 講座	12 講座	100 講座
R5 計画	111 講座	5 講座	116 講座

(2) 県民文化センター指定管理事業

本県の文化施設の拠点として、より質の高い鑑賞機会の提供などにより文化芸術の振興と発信を行うとともに、より多くの施設利用者が安全安心で快適に利用できるよう施設の適切な維持管理に努める。

なお、7月にオープンする水戸市民会館の影響把握に努めながら、リピーター及び新規利用者（団体）の確保を図り、施設全体の賑わいのある施設づくりを目指す。

また、近年の電気料を中心とした物価高騰が続く中、収入増及び経費削減に努め、収支均衡を図る。

新型コロナウイルス感染症対策については、引き続き基本的な検温、手指消毒等のガイドライン等を遵守して適切に対応する。

ア 施設の利用見込

新型コロナウイルス感染症対策については緩和傾向にあり、施設利用は回復基調にはあるが、その一方で水戸市民会館の7月オープンにより、利用状況への影響が予想される。

このような状況を踏まえ、過去に利用実績のあるリピーターを対象とした誘客に努めるとともに、引き続き、各種大会や講習会、演奏会等において、オンラインを活用したハイブリッド型施設利用を提案しながら、積極的営業活動等により新規利用団体の発掘に努め、施設全体の利用者確保を図る。

項 目	利用者数（人）	利用日数（日）	利用料金（千円）	利用率（％）
大ホール	182,400(146,500)	226 (255)	49,669 (59,230)	74.3 (82.5)
小ホール	60,700 (50,200)	261 (263)	13,254 (12,530)	78.1 (77.4)
本館集会室	60,300 (73,500)	321 (311)	5,901 (7,179)	92.8 (89.9)
分館集会室	41,700 (26,700)	329 (311)	12,330 (11,350)	94.3 (89.9)
和室（本館）	2,500 (2,200)	173 (207)	1,066 (1,750)	49.7 (59.0)
一般展示室	51,600 (46,400)	250 (239)	5,634 (5,782)	72.5 (68.9)
県民ギャラリー	48,800 (51,900)	215 (239)	3,660 (4,316)	62.3 (68.9)
練習室	2,000 (1,500)	160 (159)	486 (398)	45.7 (45.4)
施設全体	450,000 (398,900)	1,935 (1,984)	92,000 (102,535)	71.1 (72.7)

（ ）内は前年度当初計画

※ 利用率は、利用可能日に対する利用日数の割合

イ 鑑賞事業

コロナ禍においても、県民の様々な要望に応えるため、全国のトレンドや公演アンケート等の要望を参考に、若い世代をはじめ各世代の方々により多く鑑賞していただける公演をバランスよく開催し、音楽・演劇・伝統芸能等の多種多様な文化芸術に触れる機会の充実をとおして、本県の文化を支える基盤を構築する。なお、子育て世代の親子と一緒に鑑賞できコミュニケーションツールとなる機会の提供に加え、新たな取り組みとして経済的理由などで鑑賞することが難しい方への招待事業を追加し、人と社会とを繋げる文化芸術のもつ社会包摂機能を活用して、社会課題の解決に寄与していく。

また、学生以下を対象とした割引料金の設定や適切な入場料金設定により鑑賞しやすい環境を整えるための公的助成金の活用と、過去の実績データに基づく販売戦略による収入基盤の構築で、持続可能な事業運営を図る。

<事業計画数>

月 日	公演名	会 場	入場者数
5月27日(土)	飯森範親×東京佼成ウインドオーケストラ	大ホール	800人
6月10日(土)	東京21世紀管弦楽団「情熱のコンチェルト」	大ホール	950人
7月2日(日)	ウクライナ国立民族舞踊団公演(2回)	大ホール	1,500人
7月9日(日)	アリス全国ホールツアー	大ホール	1,200人
7月16日(日)	リアル恐竜ショー・恐竜パーク(2回)	大ホール	2,000人
7月17日(月・祝)	NHK交響楽団 茨城特別公演	大ホール	1,300人
8月6日(日)	WAHAHA本舗全体公演「シン・ワハハ」	大ホール	850人
8月19日(土)	森山直太郎コンサート	大ホール	1,000人
9月2日(土)	浜崎あゆみ25周年記念ライブ	大ホール	1,300人
9月9日(土)	ぶっちぎり!歌まねライブ	大ホール	1,000人
9月18日(月・祝)	仲道郁代×イバラキ・ニューフィルハーモニー	大ホール	900人
9月23日(土)	キーウ・クラシック・バレエ「白鳥の湖」	大ホール	800人
9月29日(金)	六代目 神田伯山独演会	小ホール	250人
10月3日(火)	一龍齋貞鏡独演会	小ホール	300人
10月7日(土)	だいすけお兄さんの世界迷作劇場(2回)	大ホール	2,000人
11月18日(土)	アンパンマンミュージカル(3回)	大ホール	2,400人
11月23日(木・祝)	林家正蔵一門会	小ホール	350人
11月26日(日)	木村大×榎原大「バラード・珠玉の名曲集」	小ホール	300人
12月2日(土)	体験する童話劇「銀河鉄道の夜」(2回)	小ホール	400人
12月19日(火)	劇団民藝「ある八重子物語」	大ホール	800人
2月28日(水)	牛田智大ピアノリサイタル	大ホール	870人
3月23日(土)	夏井いつき句会ライブ	大ホール	870人
計 22 事業			22,140人

ウ 施設の利用促進とサービスの向上

① 利用促進対策

利用促進チームの活性化を図り、過去の利用団体の分析、営業活動の計画、イベント及びサービス向上のアイデアを毎月開催の利用促進会議で協議し、リピーター及び新規団体への利用促進を図る。

過去の利用実績のあるリピーターに対しては、顧客データを活用し、電話、メール、訪問等により継続して利用していただけるよう働きかける。新規団体の獲得については、各学校に対し空き情報の提供や動画配信設備活用を案内し、学校行事（観劇会）等での施設利用を依頼、各関係機関（団体）、プロモーターには、より多くの全国大会やブロック大会等のコンベンション、コンサート等の誘致を働きかける。

また、引き続き映像配信システムの周知徹底を図り、現地とリモートによるハイブリット開催等の提案による利用促進に努める。

閑散期の利用促進策として実施している 1 月割引を引き続き実施し、対象施設の大ホール・小ホール等の利用促進に努める。

新たに、地域参加型のイベント「アート・クラフト市」の開催（約 1,000 人が参加）や、大・小ホールでは集客が困難と思われる演奏者向けに、レストランを活用した音楽イベントを実施し、音楽活動の場の提供と文化センターの新たな賑わいを創出する。

② 各団体との連携による利用促進

県及び水戸観光コンベンション協会等と定期的な会議や情報交換等連携を図り、全国、ブロック大会等の新規誘致に努め、茨城文化団体連合をはじめ県内の文化団体等と連携強化を図り、施設の利用促進を図る。

なお、茨城県公立文化施設協議会の会長館として、県内 31 加盟館と連携し、研修会、講演会を開催し、県内文化施設職員等の知識・技術の向上及び情報共有を図るほか、全国の先進館の催事及び運営状況等の情報交換等を行い情報収集に努める。

③ サービスの向上

昨年度導入した Web 施設予約システムの周知徹底を図るとともに、システム機能の追加による利便性の向上を図る。

ホームページは、より見やすく、分かりやすくリニューアルを図り、利用者の利便性の向上及びサービスの向上に努めるとともに、Twitter を活用し、催事及び施設の利用状況等を発信し、利用者の利便性の向上に努める。

なお、Web チケットシステムでの販売を推奨し、電子マネーや QR コード決済システム対応レジによるキャッシュレス化を進め、併せて利用者の利便性の向上に努める。

電話音声ガイダンスを導入し、利用者の目的に応じた円滑な受付を行い、利便性の向上と業務の効率化を図る。

また、利用者との事前打合せの際には、催事のイメージを分かりやすく伝えるため画像や映像を活用したタブレットを活用しサービスの向上を図る。

施設利用者向けアンケート調査を主催者向けと一般利用者向けに分けて毎月実施し、分析結果については、施設の改善及び利用者へのサービスの向上に活かすよう努める。

④ 県民文化センター友の会の運営

友の会の会員向けサービスとして、人気公演のチケット割引及び座席先行予約を実施するとともに、自主企画の公演を行い、会員確保に努め、会員数 1,500 人確保を目指す。

引き続き Web での入会手続きやチケットの購入など利用しやすい環境の提供及び周知徹底に努める。

エ ピアノを活用した参加事業

世界三大ピアノの一つである「スタインウェイピアノ」を活用した参加事業「スタインウェイ体感 2023～2024」を、年間 10 回実施し、ピアノの魅力を伝えるとともに、大ホール貸切り演奏を体感させる。

引き続き参加者が持ち込んだ楽器とのアンサンブル演奏を可能とし、オプションとして、DVD 等への録画・映像配信等を実施し、満足度の向上に努める。また、参加者への講評を実施し、参加者の演奏力の向上と担い手の育成に寄与する。

オ 安全・安心で快適な施設づくり

① 施設整備

開館後 57 年が経過し、施設の長寿命化を図るため、県と協議のうえ中長期的な修繕計画を進めるとともに、県直轄工事及び指定管理者実施工事を計画的に進める。

なお、毎月実施のアンケート等による利用者からの声を反映させ、危険箇所の早期発見と事故の未然防止に努め、緊急性の高い危険箇所については、優先して迅速な追加工事（修繕）を実施する。

備品整備は、計画通り実施し、機能保全や安全性の向上を図るとともに、利用者に快適な施設づくりに努める。

(ア) 県直轄工事

項目	金額（千円）
大ホール調光卓改修工事	76,670
本館直流電源（非常用バッテリー等）装置修繕	14,213
計 2 件	90,883

(イ) 指定管理者修繕計画

項目	金額（千円）
大ホール緞帳ワイヤー交換及び落下防止金具取付工事	1,900
大ホール天井反射板ワイヤーロープ交換工事	1,500
舞台照明用 UPS バッテリー交換改修工事	300
大ホール舞台綱元袖照明 LED 化工事	300
集会室 5 号内装工事	3,000
本館南面外灯 LED 化工事	1,600
事務所前来館者用駐車場舗装工事（後期）	4,900
緊急修繕（計画外修繕）	1,870
計 7 件	15,370

(ウ) 備品整備計画

項目	金額(千円)
移動用音響卓	4,967
大ホール松羽目ドロップ	1,870
大ホール ロビーチェアー	925
大ホール ジェットヒーター	209
計 4件	7,971

② 危機管理対策

不特定多数の来館者が見込まれることから、危機管理への備えを万全にするため、危機管理対応マニュアルを更新し、全職員、分館入居団体、業務委託先等への周知徹底及び理解度の向上を図るとともに、消防法に基づく年2回の避難訓練を実施し、利用者の安全確保に努める。

2 収益事業1(県民文化センター自主事業)

(1) 売店事業

利用者の利便性の向上のため、営業を外部委託し、スマホ決済による無人店舗型の営業形態とする。

外部委託により、営業時間も現在の月15日、1日3時間から、休館日以外の毎日営業、1日の営業時間も開館時間以内と大幅に拡大し、品揃えも現行よりも増え、利用者の利便性向上と経営のスリム化を図る。

(2) 駐車場事業

催し物に合わせ警備員を適切に配置し、利用者が安全安心に利用できるよう親丁寧な案内や誘導を行うとともに、事故の未然防止に努める。

また、案内誘導版の整備を継続し、駐車場出庫時の渋滞緩和対策に引き続き取り組む。

3 公益目的事業 2（水族館事業）

（1）水族館の運営

3年目を迎えて浸透してきた“新世海”ブランドの継続発信を行い、リニューアルオープンした屋外エリアをはじめ、これまでのリニューアルや新規生物よりそもそもの魅力の底上げができたベースからのリスタートの取り組みを進める。また新しい展示生物への挑戦と、繁殖による既存生物の持続的な追及を図る。

また茨城DCを最大活用し、県全体を巻き込んだ首都圏エリアなど広域からの集客強化を推し進め、異業種ブランドとのコラボにより、幅広い顧客の獲得に努める。

県有施設として地元で愛され、支えられている自負を持ちながら、県全体の魅力向上を担う水族館を目指していく。

項目	上半期	下半期	計
一般	471,741人	306,245人	777,986人
団体等	91,910人	86,533人	178,443人
ナイト	7,300人	7,450人	14,750人
年間パスポート	16,182人	12,639人	28,821人
有料入場者計	587,133人	412,867人	1,000,000人
年間パスポート2回目以降	45,667人	43,747人	89,414人
有料入場者計②	632,800人	456,614人	1,089,414人
無料入場者	63,171人	45,666人	108,837人
総入場者数	695,971人	502,280人	1,198,251人

（2）飼育展示事業

基本テーマ「茨城の海と自然・世界の海と地球環境」に基づき展示の充実に努めるとともに、飼育生物や県内外に棲息する水生生物について調査・研究を行い、それらを通して自然環境保護の啓発活動を行うことで、環境保全の基幹施設としての一翼を担う。

ア 魚類展示

お客さま、生きもの、スタッフの安全・安心を第一に考え、水族館の4つの目的（調査研究、教育、種の保存、レクリエーション）に沿って「既存展示の魅力度アップ」、「新規生物の導入」、「サメの展示の充実」を実施する。

また、飼育展示技術の開発、継承・人材育成を図りながら、誰もが「何度も来なくなる・何度も見たくなる」展示を目指す。

① IWASHI LIFE の演出強化方法の検討

令和4年度に実施した演出用機器類の更新にあわせて、新たな演出方法を検討・実施し「IWASHI LIFE」のブランド強化を図る。

② サメの繁殖研究・展示

自然に負荷を掛けない展示を目指し、特にサメ類の繁殖研究に力を入れ、自家繁殖したサメ類の展示を積極的に行う。

③ 解説動画の展示

表示板だけでは伝えきれない生物の生態等を当館で撮影した映像を活用し、生物の興味喚起をするとともに、話題性を向上させる。

④ フィールドでの生物の採集

定期的に乗船収集等を行い、収集した生物を用いて季節感のある展示を目指すとともに、マンボウ・サメの補充と茨城県産魚類の調査研究に役立てる。今年度は特に県内サメ類延縄漁調査や茨城県水産試験場協力のもと、調査に乗船し、生物収集などを強化する。

⑤ 深海生物・サメなどの新規展示・導入・補充

日本最多のサメの展示種数を維持するため、中期展示計画に則って収集・購入等を積極的に行っていくとともに、新たな深海生物収集拠点の検討の一環として、高知県室戸市での乗船収集調査を継続して実施する。

⑥ 展示手法の見直し・改修による魅力度アップ

生物の魅力をより伝えられる展示手法を改善するとともに、経年劣化した水槽の補修・リフレッシュを図り、展示効果を高める。また、館内全体の展示ストーリーを考慮した館内リニューアルの検討を始める。

イ 海獣展示

リニューアルした施設の魅力を十二分に生かすための生物展示・イベント・ショー等を企画・実施することで、来館者にとって一度きりの特別な体験を提供し、リピーターを確保する展示を目指す。

① 新たな視点での解説・イベントの実施

屋外では、従来の給餌解説を復活させるだけでなく、動物をより身近で感じられるイベントとして、ペンギンやカリフォルニアアシカを観覧通路に出して行う「ペンギンと記念撮影」や「カリフォルニアアシカの握手」などを実施するほか、館内の季節イベント等とも連動し、柔軟なイベント運営を行う。

② 飼育動物の健康管理の強化

獣医2名と飼育スタッフが緊密に連携をとることにより、動物の健康維持・管理体制を強化する。また、診療技術向上のため、勉強会等には積極的に参加すると共に、診断に必要な機器類についても充実を図る。全動物種に関してハズバンダリートレーニングを強化し、予防的処置への対応力向上を図る。

③ 鯨類の繁殖への取り組みとショー個体の充実

4年度に試行的に行った新江ノ島水族館との共同研究「バンドウイルカのホルモン動態の調査および人工授精への取り組み」を継続するとともに、自然繁殖も視野に入れた環境整備を行う。

ショー運営に関しては、令和3年度搬入の新規個体の種目の充実を図り、ショー個体数の充実につなげる。

④ 鰭脚類のショー・イベント出演個体増とプログラムの充実

カリフォルニアアシカについては、リニューアルエリアでの定常的なイベント開催に向けて、出演個体数の充実を図るとともに、若齢個体のトレーニングを強化する。

ミナミアメリカオットセイについては、リニューアル部分の魅力を最大限生かせるよう、解説中に実施する演技種目の拡充を目指す。

⑤ 鰭脚類、鳥類、カワウソの自然繁殖推進

カリフォルニアアシカ、フンボルトペンギン、エトピリカについては、個体数の安定が図れているため、自然繁殖を継続する。また、遺伝的に健全な個体群管理のため、フンボルトペンギン・エトピリカについては他園館との個体交換などによる血統更新を目指す。

カナダカワウソについては、季節に合わせた気温のコントロールや繁殖行動の観察を強化し、繁殖時期は新規雌1個体と雄の同居飼育を行うことで自然繁殖の促進を図る。

ゴマフアザラシについては、若齢個体の同居飼育を継続し、自然繁殖促進を図る。

⑥ ペンギン・カワウソのふれあいプログラムに向けた訓練強化

フンボルトペンギンについては、写真撮影やタッチといったふれあいプログラムに参加できる馴致個体を確保するため、計画的な人工育雛を継続する。

また、カナダカワウソについては、5年度中にふれあいプログラムへの参加を達成するべく、体への接触や人に対する脱感作を行うほか、写真撮影に向けた器具への脱感作も併せて行う。

⑦ 柔軟なショー運営とオーシャンシアター案内の内製化

ショー運営については、イベント等に対応して柔軟に内容や開催回数を変化させるほか、シアター内の案内業務を海獣展示課スタッフで内製化することにより、CS向上を図る。

ウ 自然博物館水系展示水槽管理受託事業

ミュージアムパーク茨城県自然博物館から受託した水系展示水槽の適切な管理を行うと共に、展示用生物の収集をはじめ、各種展示解説や企画展での水槽展示、維持管理を行う。

(3) 教育普及事業

学べる水族館を目指し館内での解説・レクチャー、館外での活動を行うことを通して、来館者の満足度アップに貢献し、リピーターの確保に努める。

なお、学校を対象とした事業においては、感染症の状況に左右されないリモートでの事業についても実施することで、学校関係の誘客・利用促進を図る。

ア 発見体験学習の実施

事前募集型の「自然体験塾」として、17 講座 24 回の開催を計画する。

昨年度に引き続きホームページ上での募集を主とするが、SNS、LINE 等も利用し、情報の周知及び利用度アップに努める。

イ レクチャー及び展示解説の実施

昨年度好評で参加率も高かった「水族館バックヤードツアー」を継続実施し、参加者の満足度アップと収益の確保に貢献するとともに、季節イベント等と連動し学習的要素を含んだ付帯事業を取り入れ実施する。

ウ 機関紙「Sea 遊」の発行

館内案内・情報発信・教育普及を目的とし、年 2 回（6 月、12 月）発行を予定し県内小中学校ほか、図書館などの各機関、栃木県内小中学校への配布を行う。

エ シャークダイズルームの運用管理

一昨年 12 月にリニューアルした、サメをテーマとした「シャークダイズルーム」を教育普及プログラムや催事等で最大限に活用し、当館の魅力向上促進に努める。

オ 自然教室等への講師派遣

学校教育機関などの依頼を受け、随時対応するとともに、Web 会議システム等を利用したリモートでの講師派遣にも積極的に対応し、学校の利用促進に繋げる。

カ 実習生・研修会等の受入れ

新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みつつ、主に中・高校生の職場体験、大学生の実習などの依頼を柔軟に対応する。

キ ボランティア活動支援

生涯学習の一環として、水族館で活動しているボランティアグループ「マンボラクラブ」と連携を深め、ボランティア自身が展示物と来館者との仲介役となり、来館者への学びの機会を提供できるよう活動支援を行う。

ク SDG s の取り組み

サステナビリティアクション（SDGs17 の目標）に基づき課題検討、活動報告等の共有を行うとともに、各課の SDGs に関する方針や活動計画の策定と実施、進捗の共有を行う取組みを推進していく。

(4) 誘客促進事業

県内外からの集客を図るために、サメの飼育種類数日本一としてサメのブランド化の推進、屋外リニューアルに合わせた体験イベント、県内施設とコラボし花の開花時期に合わせた特設水槽の展示、人気キャラクターとコラボしたイベント開催等、一年を通して話題提供と誘客促進に努める。

混雑緩和対策としては、Web チケットの活用を継続し、分散化や非接触を推し進め

ていくとともに、館内マップ等の印刷物の電子化を進めることで、コロナ感染症などに
対応した環境整備に努める。

また、新規顧客を開拓するため、茨城 DC の参画やインバウンド誘致のため県や町
と連携した商品造成、ホテル宿泊プランや旅行代理店によるツアー企画ユニークベニ
ューの実施拡大など、常に新しい商品や話題の提供に努めるほか、大洗町との連携事業
を継続していく。

令和4年10月にHPの全面リニューアルを行い、利便性の向上を図った。今後も常
に最適化を進めながら、閲覧者にとって分かり易いHPの運営を心掛けていく。HPや
SNS以外においても、Webメディアを積極的に活用した情報発信を行うことで、紙か
らデジタルへの移行を推し進める。また、茨城DCが本格的に始まることから、県内の
観光施設とも情報共有を図り、一丸となって茨城県全体を盛り上げていく。

さらに、より効果的な広報やセールスを展開するため、広報素材の更新や専門業者に
よるマーケティング調査を実施することで精度の高い分析を行う。

ア イベント

GW イベントとして、3月にリニューアルオープンした屋外展示生物による新たな
体験イベントや4月下旬頃、照明と音響をリニューアルした「IWASHI LIFE」を開催
し、話題提供とともに誘客促進を図る。また、夏・秋イベントは、子供を中心に高い人
気を誇るキャラクター「すみっコぐらし」とコラボした企画展等を開催し、関連する特
徴のある生物の展示や館内回遊施策のPRに努め、入場者増につなげる。クリスマス、
新春イベントについては、季節に応じた雰囲気や館内や水槽を演出し、常に話題提供に
努める。さらに、春イベントとして地元のプロバスケットボールチーム、茨城ロボッツ
とコラボしたイベントを継続して開催し、茨城ロボッツのファンを取り込んだ誘客促
進を図る。

その他、年間をとおしたイベントとして、ひたち海浜公園及びいばらきフラワーパ
ークと協力し、季節の花をテーマとしたコラボ水槽を展示し、話題提供を図る。

夜間営業については、6月・11月のユニークベニュー強化月間を除き、土曜日の夜
は、雪月花のある「NIGHT AQUAWORLD」が開催していることを定着させる。

また、人気キャラクターとのコラボや生物へのフォーカス、シーズンネタなど様々な
パターンの可変性を持ったプログラムを醸成することで、客層の多様化に努める。

イ プロモーション

令和5年度も、タグライン「さぁ、新世海！」を継承し、HPやイベントチラシ等
において積極的に使用し、新規プログラムの開発など、常に新しいことにチャレンジして
いく。

HP閲覧者の8割以上がスマートフォン利用者のため、最適化しながら情報へア
クセスし易いサイトづくりを心掛けていく。また、各年齢層に合わせた周遊コースをHP上
に掲載するなど、県内の他施設と連携することで、茨城DCを盛り上げていく。SNSに
おいては、若者をターゲットにした新しい機能の充実を図り、きめ細かな情報発信を行
っていく。

また、プロモーション用の素材については、こまめに更新していくことで、新鮮さを
保持し、HPや広告、セールス等で活用していく。

メディアへの情報発信については、Web に比重を置いた PR を続けていくことで、紙からデジタルへ移行を進めていく。また、「メディアデー」を開催し、メディア従事関係者を水族館へ招待し、メディアとの信頼関係を築いていく。

ウ マーケティング調査

従来の「来館者アンケート」や駐車場の「ナンバー調査」を継続する一方、専門業者にマーケティング調査を委託する。近隣の都県民に対し、Web を利用した大規模調査を実施し、精度の高いデータ分析をすることで、その後の広報活動やセールスで活用し、県外からの誘客へと結び付けていく。

エ オペレーション

Web チケットについては、非接触の実現、館内混雑の緩和、オペレーションの簡略化の観点から導入を継続し、また販売ページ上での選択肢を増やす意味で様々なチケットプランを醸成する。

なお、企業連携や近隣宿泊施設等とのセットプランについても、電子チケットのノウハウを活かし、順次非接触・電子化を進めることで、業務の効率化を進める。

昨年度売り上げが非常に好調であった年間パスポートについては、確実な更新による囲い込みを実現すべく、特典の更新・キャンペーンなどを通じてアピールすると共に、電子化を進めるための検討にも着手する。

また、自動ゲートを十分に活用するためにも、各種割引や預託券等の整理を行い、省力化に努めるとともに、館内マップ等の配布物に関してもさらなる電子化を進め、経費の節減・省力化を実現する。

オ セールス

新商品を開発し、旅行業者や宿泊施設との連携強化を図り、新たな商圏内の団体を確保するため、誘致活動を積極的に行っていく。

また、ユニークベニューや校外学習利用誘致、インバウンド誘致のための計画的な商品造成や、県や町と連携した茨城 DC の積極的な参画で誘客促進を図る。

(5) 管理運営部門

ウィズコロナの社会で、水族館の目指すべき姿を見据え、内部統制の強化を図り、継続して風通しの良い職場づくりに取り組み、多様性のある持続可能な水族館を造成する。

また、継続して収入源の確保を図っていくほか、業務の効率化を推進することで、より一層の財務健全化を図る。

ア 収入確保対策

コロナ禍による新たな財源となる雑収入の導入や開発、各種の助成金等の活用など、収入源を開拓するとともに、計画的な資金確保対策として特定費用準備資金制度の活用を推進する。

イ 業務効率化等対策

事務手続きの電子化及びDX導入等の推進に努め、電子データの一元管理や運用方法を策定し、事務の効率化を図る。また、毎月の予実管理の実施により、効率的な予算管理を行い収支目標の達成を図る。

ウ 労務管理等の向上

年次有給休暇の適正な取得や時間外勤務の削減について、毎月開催する委員会で対策立案や検証を行いながら、定期的な労務管理状況の調査の実施により確立していく。また、コンプライアンス委員会を中心に、ハラスメント防止や専門研修を実施しながら、風通しの良い労働環境の整備を推進する。

エ 人材育成

職員のスキルアップを図るため、財団オンライン研修カリキュラムの階層別研修を中心に実施するほか、お客様へのサービス向上を図る接客研修や業務に必要な知識習得、職場環境の向上を図る実務研修など事務局と連携を図りながらも館独自で実施し、職員のキャリアアップを目指す。

オ 施設設備の計画修繕対応

県有財産である水族館を管理するにあたり、長寿命化を見据えながらも、腐食や老朽化による施設設備の修繕に対応し、安全安心かつ清潔さを保つ施設管理を行う。

項目	金額(千円)
屋上防水改修工事(第1期)	56,349
淡水・中水・上水揚水ポンプ・副受水槽更新工事	33,819
高圧接触器更新工事	7,040
発電機点検・修理	132,000
非常放送設備更新工事	7,486
アトリウム天窓ガラス交換工事	2,720
昇降機(4号機)かご床改修工事	4,204
計7件	243,618

4 収益事業2(水族館売店事業)

地域に貢献する観光拠点施設としての役割を踏まえ、マーケットプレイスの物販部門「スーベニアショップ モラモラ」、シャークダイズルーム内の「コレクターズショップ ガレオス」、「リラックスカフェ マーメイド」の運営を行う。

また、環境に配慮した有料レジ袋の導入、プラスチック製食器類の見直しにより、海洋環境への取り組みを推進し、SDGsで掲げられている海の豊かさを守る活動の一環として、プラスチック類の削減等社会的役割を果たす。

(1)「スーベニアショップ モラモラ」の運営

館内イベントに関連したオリジナル商品の展開を推し進め、新商品の開発・販売促進に努めるとともに、話題性のあるキャラクターとのコラボ商品や環境に優しい

商品などを展開することにより、集客に結び付く店舗運営を目指す。

また、新商品導入に際しては、店舗内什器棚の商品の配置を考慮し、リピーター層にも満足してもらえる店舗作りに努め、収入増を図る。更に、リニューアルに向けてのレイアウト分析を行う。

(2) 「コレクターズショップ ガレオス」の運営

館内店舗ならではの専門性のある商品構成や店舗名である「サメ」やリニューアル後の「クラゲ」に特化した商品のアイテム数を増やしていく。

また、店舗の雰囲気に合わせて大人向けの高品質・高付加価値商品を揃えることで単価アップも図る。更に新たな試みとしてエアくじを導入することにより、更なる収入増を目指す。

(3) 「リラックスカフェ マーメイド」の運営

リニューアル後のメニュー構成を基本に、既存のメニューやオペレーションの見直し等を行う事により、利用促進を図る。

また、イベントや季節に合わせた新メニューを考案し、常に新たな取り組みを行う事により、顧客満足度のアップを図りながら、更なる収入増に取り組む。

ナイト営業時での限定メニューは、夜の雰囲気に合わせたメニュー展開で、利用客増を図り、売り上げを確保する。また、SDGsの取り組みとしては、プラスチック製食器やカップの見直しを図るとともに、店舗イメージに即した製品を採用するほか、イベント等で余った食材を利活用したメニュー展開も推進し、環境問題への取り組みもアピールする。

5 法人運営

新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に薄れつつあり、県民文化センター及び大洗水族館の両集客施設とも、ウィズコロナという視点で運営するフェーズ（段階）を迎えており、業績評価指標による振り返りと打ち返しの徹底に努めた目標値の確実な達成、書類の電子化及びネットワーク構築の整備による業務の効率化と生産性向上の推進等で、公益目的事業の充実に向けた財産基盤及び経営基盤の強化を図る。

なお、職員については、様々な変化にも柔軟に対応しながら業務を推進し、財団の役割や使命を十分に果たすことができる人材の確保から育成までの仕組みを整えていく。

さらに、持続可能な開発目標（SDGs）についても、財団全体で具体的な取り組みを検討・推進し、持続可能な社会の実現に貢献していく。

また、管理職員をはじめ職員個々の成果や実績を適正に評価できるよう、給与等に反映させる能力・業績評価制度を継続実施するとともに、表彰制度を推進し、組織の活性化と職員の意識高揚を図る。

Ⅱ 収 支 予 算

- 正味財産増減予算書（損益ベース） …………… 17 ～ 18
- 正味財産増減予算書（損益ベース）内訳書 …………… 19 ～ 20
- 資金調達、設備投資及び特定資産残高の見込み書 …………… 21

令和5年度 公益財団法人いばらき文化振興財団正味財産増減予算書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位:千円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産等運用益	312	312	0
② 特定資産運用益	2,564	1,976	588
③ 事業収益	3,045,215	2,672,498	372,717
自主公演入場料収益	25,294	36,925	△ 11,631
受託公演入場料収益	0	0	0
手数料収益	7,258	6,975	283
負担金収益	27,956	2,200	25,756
受託公演委託金収益	28,111	26,091	2,020
県民文化センター指定管理収益	193,426	193,426	0
県民文化センター利用料収益	92,000	102,535	△ 10,535
自然博物館水系展示水槽 管理委託金収益	17,049	16,536	513
水族館入場料収益	1,862,518	1,513,263	349,255
売店収益	771,225	754,235	16,990
駐車場利用料収益	20,378	20,312	66
④ 受取補助金等	72,328	65,078	7,250
受取財団運営費補助金	51,878	51,878	0
新人演奏会補助金	2,000	0	2,000
受取助成金	18,450	13,200	5,250
⑤ 雑収益	55,066	33,732	21,334
⑥ 指定正味財産からの振替額	0	0	0
経常収益計(A)	3,175,485	2,773,596	401,889
(2) 経常費用			
① 事業費	3,010,638	2,603,331	407,307
文化活動団体等助成金	22,377	15,421	6,956
役員報酬	12,069	11,951	118
給料手当	589,188	561,434	27,754
臨時雇賃金	9,660	4,894	4,766
福利厚生費	7,082	7,113	△ 31
法定福利費	93,572	87,873	5,699
報償費	9,541	7,701	1,840
旅費交通費	7,077	4,271	2,806
接待交際費	60	40	20
消耗品費	53,077	52,950	127
燃料費	79,614	57,097	22,517
会議費	662	529	133
印刷製本費	14,077	13,088	989
光熱水料費	493,866	202,783	291,083
修繕費	35,530	31,342	4,188
飼料費	35,935	31,944	3,991
医薬材料費	1,693	1,554	139
賄材料費	41,678	40,599	1,079
通信運搬費	5,972	5,575	397
広告宣伝費	10,447	8,769	1,678
支払手数料	73,476	64,654	8,822
保険料	2,034	2,032	2
委託費	569,614	616,665	△ 47,051
賃借料	41,181	40,483	698
工事請負費	20,609	119,592	△ 98,983
原材料費	385,872	357,847	28,025
生物購入費	10,581	9,421	1,160
支払負担金	4,293	4,271	22

(単位:千円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
租税公課	109,032	88,237	20,795
退職給付費用	26,338	45,299	△ 18,961
雑 費	20	20	0
修繕工事負担金	229,208	92,810	136,398
県納付金	0	0	0
減価償却費	15,203	15,072	131
② 管理費	16,567	16,992	△ 425
役員報酬	1,535	1,514	21
給料手当	4,213	4,248	△ 35
臨時雇賃金	0	0	0
福利厚生費	220	195	25
法定福利費	813	780	33
報償費	0	0	0
旅費交通費	471	1,141	△ 670
接待交際費	20	20	0
消耗品費	569	508	61
燃料費	30	30	0
会議費	14	18	△ 4
印刷製本費	589	593	△ 4
光熱水料費	200	160	40
修繕費	100	100	0
医薬材料費	0	0	0
通信運搬費	436	422	14
広告宣伝費	316	150	166
支払手数料	207	158	49
保険料	236	365	△ 129
委託費	2,129	630	1,499
賃借料	998	1,056	△ 58
支払負担金	1,310	1,227	83
租税公課	73	73	0
退職給付費用	2,048	3,567	△ 1,519
雑費	0	0	0
減価償却費	40	37	3
経常費用計(B)	3,027,205	2,620,323	406,882
当期経常増減額(A)-(B)	148,280	153,273	△ 4,993
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計(C)	0	0	0
(2) 経常外費用			
① 固定資産除去損			
固定資産売却・除却損	0	0	0
経常外費用計(D)	0	0	0
当期経常外増減額(C)-(D)	0	0	0
当期一般正味財産増減額	148,280	153,273	△ 4,993
一般正味財産期首残高	1,774,412	1,242,763	531,649
一般正味財産期末残高	1,922,692	1,396,036	526,656
II 指定正味財産増減の部			
① 一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	565,000	565,000	0
指定正味財産期末残高	565,000	565,000	0
III 正味財産期末残高	2,487,692	1,961,036	526,656

令和5年度 公益財団法人いばらき文化振興財団正味財産増減予算書内訳表

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位:千円)

科目 \ 区分	公益目的事業会計			収益事業会計			法人会計	合計
	公1 文化振興事業	公2 水族館事業	小計	収1 文化自主事業1	収2 水族館売店事業	小計		
I 一般正味財産増減の部								
1 経常増減の部								
(1) 経常収益								
① 基本財産等運用益	312	0	312	0	0	0	0	312
② 特定資産運用益	2,046	379	2,425	18	80	98	41	2,564
③ 事業収益	363,482	1,879,567	2,243,049	31,434	770,732	802,166	0	3,045,215
自主公演入場料収益	25,294	0	25,294	0	0	0	0	25,294
受託公演入場料収益	0	0	0	0	0	0	0	0
手数料収益	6,171	0	6,171	1,087	0	1,087	0	7,258
負担金収益	27,956	0	27,956	0	0	0	0	27,956
受託公演委託金収益	28,111	0	28,111	0	0	0	0	28,111
県民文化センター指定管理収益	193,426	0	193,426	0	0	0	0	193,426
県民文化センター利用料収益	82,524	0	82,524	9,476	0	9,476	0	92,000
自然博物館水系展示水槽管理委託金収益	0	17,049	17,049	0	0	0	0	17,049
水族館入場料収益	0	1,862,518	1,862,518	0	0	0	0	1,862,518
売店収益	0	0	0	493	770,732	771,225	0	771,225
駐車場利用料収益	0	0	0	20,378	0	20,378	0	20,378
④ 受取補助金等	55,802	0	55,802	0	0	0	16,526	72,328
受取財団運営費補助金	35,352	0	35,352	0	0	0	16,526	51,878
新人演奏会補助金	2,000	0	2,000	0	0	0	0	2,000
受取助成金	18,450	0	18,450	0	0	0	0	18,450
⑤ 雑収益	1,047	45,840	46,887	0	8,179	8,179	0	55,066
⑥ 指定正味財産からの振替額	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計(A)	422,689	1,925,786	2,348,475	31,452	778,991	810,443	16,567	3,175,485
(2) 経常費用								
① 事業費	432,385	1,792,074	2,224,459	22,192	763,987	786,179		3,010,638
文化活動団体等助成金	22,377	0	22,377	0	0	0		22,377
役員報酬	3,038	7,854	10,892	0	1,177	1,177		12,069
給与手当	121,769	361,842	483,611	7,142	98,435	105,577		589,188
臨時雇賃金	65	4,026	4,091	0	5,569	5,569		9,660
福利厚生費	1,470	4,625	6,095	97	890	987		7,082
法定福利費	19,794	58,351	78,145	1,193	14,234	15,427		93,572
報償費	9,475	66	9,541	0	0	0		9,541
旅費交通費	3,346	3,237	6,583	0	494	494		7,077
接待交際費	0	60	60	0	0	0		60
消耗品費	6,751	34,318	41,069	55	11,953	12,008		53,077
燃料費	4,129	65,493	69,622	0	9,992	9,992		79,614
会議費	448	214	662	0	0	0		662
印刷製本費	5,383	7,546	12,929	0	1,148	1,148		14,077
光熱水料費	55,128	379,972	435,100	780	57,986	58,766		493,866
修繕費	15,370	18,809	34,179	0	1,351	1,351		35,530
飼料費	0	35,935	35,935	0	0	0		35,935
医薬材料費	5	1,688	1,693	0	0	0		1,693
賄材料費	0	0	0	0	41,678	41,678		41,678
通信運搬費	2,111	3,609	5,720	0	252	252		5,972
広告宣伝費	5,110	4,633	9,743	0	704	704		10,447
支払手数料	6,035	53,854	59,889	420	13,167	13,587		73,476
保険料	470	984	1,454	320	260	580		2,034
委託費	117,724	379,641	497,365	8,662	63,587	72,249		569,614
賃借料	12,550	25,164	37,714	62	3,405	3,467		41,181
工事請負費	0	18,701	18,701	0	1,908	1,908		20,609
原材料費	0	0	0	336	385,536	385,872		385,872
生物購入費	0	10,581	10,581	0	0	0		10,581
支払負担金	378	2,618	2,996	1	1,296	1,297		4,293
租税公課	12,443	53,826	66,269	1,859	40,904	42,763		109,032
退職給付費用	6,506	15,228	21,734	1,155	3,449	4,604		26,338
雑費	0	20	20	0	0	0		20
修繕工事負担金	0	229,208	229,208	0	0	0		229,208
県納付金	0	0	0	0	0	0		0
減価償却費	510	9,971	10,481	110	4,612	4,722		15,203

(単位:千円)

科目 \ 区分	公益目的事業会計			収益事業会計			法人会計	合計
	公1 文化振興事業	公2 水族館事業	小計	収1 文化自主事業 センター	収2 水族館売店事業	小計		
② 管理費							16,567	16,567
役員報酬							1,535	1,535
給料手当							4,213	4,213
臨時雇賃金							0	0
福利厚生費							220	220
法定福利費							813	813
報償費							0	0
旅費交通費							471	471
接待交際費							20	20
消耗品費							569	569
燃料費							30	30
会議費							14	14
印刷製本費							589	589
光熱水料費							200	200
修繕費							100	100
医薬材料費							0	0
通信運搬費							436	436
広告宣伝費							316	316
支払手数料							207	207
保険料							236	236
委託費							2,129	2,129
賃借料							998	998
支払負担金							1,310	1,310
租税公課							73	73
退職給付費用							2,048	2,048
雑費							0	0
減価償却費							40	40
経常費用計(B)	432,385	1,792,074	2,224,459	22,192	763,987	786,179	16,567	3,027,205
当期経常増減額(A)-(B)	△ 9,696	133,712	124,016	9,260	15,004	24,264	0	148,280
2 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計(C)	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
① 固定資産除去損	0	0	0	0	0	0	0	0
固定資産除却損	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計(D)	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額(C)-(D)	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額(E)	4,985	4,984	9,969	△ 3,805	△ 6,164	△ 9,969	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 4,711	138,696	133,985	5,455	8,840	14,295	0	148,280
一般正味財産期首残高	233,247	1,033,905	1,267,152	60,391	446,493	506,884	376	1,774,412
一般正味財産期末残高	228,536	1,172,601	1,401,137	65,846	455,333	521,179	376	1,922,692
II 指定正味財産増減の部	0	0		0	0		0	
① 一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	565,000	0	565,000	0	0	0	0	565,000
指定正味財産期末残高	565,000	0	565,000	0	0	0	0	565,000
III 正味財産期末残高	793,536	1,172,601	1,966,137	65,846	455,333	521,179	376	2,487,692

令和5年度資金調達、設備投資及び特定資産残高の見込み書

(自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日)

1. 資金調達の見込み

借入予定の有無 なし

2. 設備投資の見込み

(単位:千円)

取得	事業番号	設備投資の内容	支出予定額	資金調達方法
	公2	サメ卵飼育用アクリル水槽	190	自己資金
公2	サメ卵飼育水槽用クーラー	220	自己資金	
公2	レントゲン読み取り機(CR)一式	2,420	自己資金	
公2	ポータブルレントゲン撮影機一式	2,530	自己資金	
公2	ホイストクレーン吊り下げ型体重計	286	自己資金	
公2・収2	AED(総合案内・マーメイド)	979	自己資金	
収2	券売機	660	自己資金	
		計	7,285	

3. 特定資産残高の見込み

(単位:千円)

特定資産の区分	積立金の残高及び増減の見込み額			
	前期末残高 (A)	当期増加額 (B)	当期減少額 (C)	当期末残高 (A)+(B)-(C)
(1) 退職給付引当資産	551,614	28,043	0	579,657
(2) 助成事業積立資産	535,000	0	0	535,000
(3) 文化振興事業積立資産	58,342	2	0	58,344
(4) 施設設備修繕等積立資産	216,300	5	0	216,305
(5) 事業資金積立資産	213,424	4	0	213,428
(6) 緊急時対応積立資産	290,095	14,295	0	304,390
(7) 特定費用準備資金	28,850	4	21,310	7,544
文化活動助成事業資金	(28,850)	(4)	(21,310)	(7,544)
(8) 資産取得資金	0	0	0	0
減価償却資産取得資金	(0)	(0)	(0)	(0)
合計	1,893,625	42,353	21,310	1,914,668

